

品名	ア ン モ ニ ア	国連番号	1 0 0 5
----	-----------	------	---------

該 当 法 規 ・ 危 険 有 害 性

消 防 法						毒物及び劇物取締法			高圧ガス保安法		火 薬 類 取 締 法			道 路 法		
種 別					指 定 可 燃 物	品 名 (法別表)	毒 物	劇 物	特 定 毒 物	一 般 高 圧 ガ ス	液 化 石 油 ガ ス	火 薬	爆 薬	火 工 品	施 行 令 第 1 9 条 の 1 2、1 3 に 該 当	
第 1 類	第 2 類	第 3 類	第 4 類	第 5 類												
								●		●						●
特 性	危 険 性			有 害 性					環 境 汚 染 性		性 状					
	禁水性	爆発性	可燃性	有 害 ガ ス 発 生			目・皮膚に触れると危険	河川への流入注意	固 体	液 体	気 体	水 溶 性				
				常 温	加 熱 時 火 災 時	水 に 接 触										
		●	●	●				●	●		●			●		

事 故 発 生 時 の 応 急 措 置

- ① 車を安全な場所に移動する。(人家や人ごみを避け、できるだけ交通の障害のないような場所に移動し、エンジンを停止し、車止めをする。)
- ② 事故の発生を大声で告げ、下記事項を消防署及び警察署に通報し、人を風上に避難させる。
- ③ 火気厳禁。エンジンの熱や火花は着火源になる。
- ④ 容器を覆っているシート等を取り除き、ガスを大気に放出・拡散させる。
- ⑤ 保護具を着用し、風上より消火、漏れ止め、容器冷却、容器移動等の災害拡大防止措置を行う。
- ⑥ 下記事項を荷主会社、運送会社、地域防災組織等の関係機関へも連絡する。

緊 急 通 報

1 1 9 (消 防 署) 1 1 0 (警 察 署) 高 速 道 路 の 非 常 電 話

[緊 急 通 報 例]

- ① いつ ○○時 ○○分頃
- ② どこで ○○市○地区(国、県、市)道○○号線○○付近で
- ③ なにが 「液化アンモニア、(高圧ガス、劇物)」が
- ④ どうした 漏れています。漏れて火災になっています。
- ⑤ ケガ人は ケガ人がいます(救急車をお願いします)。ケガ人はいません。
- ⑥ 私の名前は ○○運送会社 ○○です。

緊 急 連 絡

(特に、休日・夜間に確実に連絡がとれる部署の電話番号を記入する)

荷主会社	株式会社オカノ ガス部	運送会社	
住 所	嘉手納町字屋良1022	住 所	
電 話	平日・昼間 098-956-2040 休日・夜間 098-867-1611	電 話	平日・昼間 休日・夜間

品名	アンモニア	国連番号	1005
災害拡大防止措置			
特記事項	処理剤		
<p>① 皮膚に触れるとやけど（腐食性薬傷）やしもやけ（凍傷）を起こす。</p> <p>② 目に入った場合、結膜や角膜に炎症を起こし、失明する危険性が高い。</p> <p>③ 容器内圧力 : 30℃で1.1MPa（10.8kg/cm²）〔ゲージ圧力〕 40℃で1.5MPa（14.8kg/cm²）〔ゲージ圧力〕</p> <p>爆発範囲 : 15～28%（空気中）</p> <p>許容濃度 : 25ppm</p> <p>相対密度（ガス比重） : 0.6（空気を1とする。空気より軽い。）</p> <p>液密度 : 0.676kg/L</p> <p>色・臭い : 無色・刺激臭</p> <p>容器外面の塗色 : 白色</p>			
漏えいしたとき			
<p>① 有毒・爆発性ガス（アンモニア）が発生するので、保護眼鏡、保護手袋、保護長靴、保護衣アンモニア用防毒マスク又は空気呼吸器を着用して、風上で作業する。</p> <p>② 漏えい箇所を濡れた布等で覆い、ガス状のアンモニアに対しては遠くから霧状の水をかけ吸収させる。</p> <p>③ 排水する時は、土砂等で拡大防止を図り、多量の水で洗い流す、ただし、直接河川、用水路には流さない。</p>			
周辺火災のとき			
<p>① 容器を安全な場所へ移動する。</p> <p>② 移動することが不可能な場合は、容器の破損防止のために容器及び周囲に散水する。</p>			
発火したとき			
<p>① 近くに着火源がなくガスが滞留しない場所で、水噴霧、粉末消火器を用いて風上より消火し、漏えい防止措置を施す。</p> <p>② 容器の温度が高い場合は、発火している容器及び周囲の容器に噴霧散水した後、周囲の容器を安全な場所に移動する。</p> <p>③ 周辺及び漏えい状況から判断して、消火するとかえって危険性が増すと考えられるとき等は、火災の拡大・類焼を防止するため、周囲に噴霧散水しながら、容器内のアンモニアがなくなるまで燃焼させる。</p>			
救急措置			
<p>① 皮膚に付着した場合は、直ちに衣服や靴を脱がせて、多量の水で十分に洗い流す。</p> <p>② 吸収した場合は、直ちに新鮮な空気のある場所に移し、安静・保温に保ち、呼吸困難な場合や停止している場合は、人工呼吸を行う。</p> <p>③ 火傷の場合は、きれいな水や氷で患部を冷やす。ショック状態の場合は頭を低くして寝かせ、暖める。</p> <p>④ 目に入った場合は、直ちに多量の水で15分以上洗う。</p> <p>⑤ 患者が発生した場合は、もよりの医者へ運ぶ。</p>			

液 化 ア ン モ ニ ア

劇物（法別表第2第4号） 1次

別名：液安

NH₃

劇物（アンモニア）

（性状） 無色の液化ガスで息詰まるような刺激臭がある。アンモニアと空気との混合ガスは爆発の危険性がある。爆発範囲は15～28容量%、水に可溶（0℃で水100gに89.9g溶ける）。

措 置	漏 え い 時	<p>風下の人を退避させる。必要があれば水で濡らした手ぬぐい等で口及び鼻を覆う。漏えいした場所の周辺にはロープを張るなどして人の立入りを禁止する。付近の着火源となるものを速やかに取り除く。作業の際には必ず保護具を着用する。風下で作業をしない。</p> <p>（少量） 漏えい箇所を濡れおしる等で覆い、遠くから多量の水をかけて洗い流す。</p> <p>（多量） 漏えい箇所を濡れおしる等で覆い、ガス状のアンモニアに対しては遠くから霧状の水をかけ吸収させる。</p> <p>この場合、濃厚な排液が河川等に排出されないよう注意する。</p>
	出 火 時	<p>（周辺火災の場合） 速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能の場合は、容器及び周囲に散水して冷却する。</p> <p>（着火した場合） 漏出を止めることができる場合は漏出を止める。ガス漏れが多量で、火災が発生している場合は、容器及び周囲に散水すると共に至急関係先に連絡し延焼防止に努める。</p> <p>（消火剤） 水、粉末、泡、炭酸ガス</p>
注 意 事 項	暴 露 ・ 影 響	<p>人体に 対 する 影 響</p> <p>（吸入した場合） 激しく鼻やのどを刺激し長時間吸入すると肺や気管支に炎症を起こす。高濃度のガスを吸入すると喉（こう）頭けいれんを起こすので極めて危険である。</p> <p>（皮膚に触れた場合） 直接液に触れるとやけど（腐食性薬傷）やしもやけ（凍傷）を起こす。</p> <p>（眼に入った場合） 結膜や角膜に炎症を起こし、失明する危険性が高い。</p>
	接 触 急 時 方 法	<p>（吸入した場合） 直ちに患者を毛布等にくるんで安静にさせ新鮮な空気の場合に移し、速やかに医師の手当てを受ける。呼吸が停止している時は直ちに人工呼吸を行う。</p> <p>呼吸困難のときは酸素吸入を行う。</p> <p>（眼や皮膚に付着した場合） 直ちに付着又は接触部を多量の水で15分以上洗い流す。汚染された衣服やくつは速やかに脱がせる。速やかに医師の手当てを受ける。</p>
保 護 具		<p>保護手袋（ゴム）、保護長ぐつ（ゴム）、保護衣、保護眼鏡、アンモニア用防毒マスク又は空気呼吸器</p>